令和８年度第２回　羽村市立羽村第三中学校コミュニティ・スクール委員会会議録

１　日　時	令和８年７月13日（月）　午後５時30分～７時00分
２　場　所	
３　出席者	会長　石黒 奈保美 委員　　渡邉　智美　青木　悟　木田 兼治） 地域コーディネーター（ＣＯ）
４　欠席者	委員　中村 正人　江口　美樹敬称略）
５　議　題	１．地域学校協働活動の内容について ２．意見交換
６　傍聴者	０人
７　配布資料	・【資料１】校長作成資料
８　会議の内容	（会長）これから、会議を開会します。 １．校長挨拶 （委員）添付資料に沿って直近の学校の状況や安全対策、今後の見通しについて報告がなされた（以下、補足内容）。 ・部活動地域展開: 夏から学校単位ではなく「拠点校」としての地域展開がスタートする。これに伴い部員の募集が新たに始まるため、明日通知を配布して進める。 ・安全対策・不審者・野生動物情報: ５月12日に松林小近くでイノシシの目撃情報あり。子どもたちがイノシシを追いかけたという情報もある。羽村の人は見慣れていないため、安全指導の徹底を行う。また、小学校の郊外学習（羽村・あきる野方面）に向けて熊対策（本格的な熊撃退スプレーの携行など）を実施。中学校の郊外学習（高尾山など）でも班行動における安全対策を見直している。 ・台風対応: ６月３日の台風接近に伴い臨時休校（※前日判断・休校等の措置）を実施。市教委が迅速な判断を行ってくれてよかった。結果として大きな被害はなく、週末の体育大会への影響も最小限に抑えられた。 ・令和９年度の見通し・学校運営: 学級数や通常職員数は現状維持の想定だが、固定級（学級編成の基準人数）がギリギリのラインにあり、３学期に少しでも減ると２学級に減少してしまう懸念がある。 ・その他: ４校統合に係る保護者会については、紛糾することはなかったが、

		保護者からの心配や意見が数件出た。また、特別支援学級のあり方についても様々な意見がある。 　北区の学校火災を受け、羽村三中に斜め方式と垂直式の救助袋があるため、構造上の確認を行い、7 月 23 日には市内全校を対象に説明会（各校 5 人程度）が開かれる予定。 ２学期の行事: 　合唱コンクールは、伴奏者が確保しづらい状況を考慮し、課題曲は各学年全体で歌い、自由曲のみをクラス合唱とする方向で進める。また、今回は有志を集めて有志合唱を実施する予定。・・。 ２．地域学校協働活動の内容について （会長）次第の「2 地域学校協働活動の内容について」に沿って、ゲストティーチャー、プロから学ぶ、面接指導の 3 つのテーマを中心に意見交換が行われた。 ① 授業で希望するゲストティーチャー（日都産業株式会社） 委員:昨年度から事前訪問・依頼を行っており、今年度実施する予定となっている。インクルーシブ遊具（障害のある子も遊べる遊具）の製造など、全国的にも先進的な取り組みをしている身近な素晴らしい会社だと実感した。 委員:内容は会社の活動紹介に加え、実際に遊具の金属部品をボルト・ナット、スパナやソケットレンチ等の工具を使って組み立てる作業体験を行う。狙いとしては、単なる作業にとどまらず、ジャングルジムの角に使う「エンロキャップ」の新しい用途（イノベーション）のアイデア出しを課したい。既存の職業観に縛られず「新たな価値を創造する目線」を子供たちに持たせたい。7 月 28 日に最終的な道具等の打ち合わせを予定している。 委員:家庭科で商工会（飲食店のレシピを学ぶ調理実習など）と連携するような広がりも今後考えていきたい。 ② プロから学ぶ（講師 3 名） ＣＯ:最近、コンビニの若い店員や、学校現場の若い教員の間でも挨拶が少なくなっていると感じる。挨拶や礼儀作法がいかに大切か、改めてプロの講師から強調して伝えてもらいたい。部活動の地域移行が進む中で、子供たちの意識の差やレベルの差による課題、試合に出られない子の不満など大人が取り組むべき課題も多い。近隣市では学校が荒れ始めているところもある。教える側が徹底して礼儀や規範を指導していく必要がある。職場体験を前に、ぜひそうした心構えを伝えてほしい。 委員:今年の 2 年生は、悪気や反抗心はないものの「なぜ規則を守らなければいけないのか」「なぜ早く着席して準備しなければいけ

	ないのか」という根本的な規範意識や時間を守ることの意味が、本質的に理解できていない（自分事として捉えられていない）生徒が少なからずいる。「掃除をすること」「ゴミを拾うこと」に対しても、「自分が落としたゴミではないから」と平気でスルーしてしまう。集団の中で「良い行動をすること」を躊躇してしまう雰囲気が続いている。今回の「プロから学ぶ」では、働くやりがいだけでなく、「社会の現実や厳しさ」をしっかり伝えてほしい。「今のままだと自分が選ばれない人生（しんどい状況）になってしまう」という現実を見せることで、子供たちに気づいてほしい。 ③ 面接指導（令和９年１月実施予定） 委員：今年度も西多摩農協（2 名確約）、西多摩衛生組合（1 名確約）の計 3 名が面接官を引き受けてくれた。定期試験等の兼ね合いで１月に実施予定。ボランティアでの協力となるため平日の夕方に面接官を確保するのが難しい状況。もし地域等で紹介できる方がいれば、あと何名か増やしたいため情報をいただきたい。 委員：商工会のつながりで有力候補あり。・・・・・・・。 ３．情報交換 委員個人の気づきや、中学生を取り巻く SNS トラブル、家庭でのしつけのあり方について深い議論が行われた。 委員：中学生の規範意識の課題を聞いていて、デジタルツール（スマホやゲーム）に過剰に時間を奪われていることが原因の一つではないかと感じた。それにより、家庭内のコミュニケーションや地域での体験活動が失われ、人間として基本的な「挨拶」や「気づく力」を学ぶ機会が失われている。また、親が手助けしすぎて子供が自分で考え、問題を解決する機会を奪っている面もある。 委員：幼児期（0～6 歳）の教育では、大人がロールモデルとしてゴミを拾う姿を見せたり、環境設定をすることで、子供は自然と真似をして育つ。中高生はホルモンバランスの変化から、伝えるのが大変な時期だが、諦めずに伝え続ける環境づくりが大切。 委員：私立の学校でも、SNS（LINE や BeReal 等）をきっかけとした悪口の書き込みから裁判沙汰（損害賠償請求など）になるほどのトラブルが起きている。子供たちは「スクショを撮られたら一生消えない（デジタルタトゥー）」といった怖さやリスクを「他人事」として捉えており、危機感が非常に薄い。 委員：親への啓発や、実例を通じた早い段階での指導が不可欠だと感じる。

	委員:SNS の指導において、子供たちに道徳的な理屈を言っても「他人事」になり、なかなか響かない。授業等ではシンプルに「(ログや証拠が残るから）絶対にバレる。バレて一番困るのは自分なんだよ」と伝えるようにしている。 　コーディネーター:かつて他校で大晦日に生徒間で不適切な画像拡散が起きた際も、対応に苦慮したが、保護者は全く把握していなかった。 委員:親の責任（ペアレンタルコントロールの徹底や、スマホを夜間は部屋に持ち込ませないルールづくりなど）を明確にする必要がある。過去には「学校でしつけをしてください」と言う保護者もいたが、家庭教育の分野としつけの役割分担を今一度見直さなければならない。 委員:自戒を込めてになるが、親が子供にスマホのリスクをちゃんと教えられていないのも大きな問題だと感じている。子供が学べていなければ、集団生活や集団行動の中で、自分事として行動できないということにつながっていく。親をはじめ、子供を取り巻く周りの大人たちが、一つずつ伝えていくことが大切。 委員:非常に貴重な意見が出た。こうした課題意識を地道に発信し、一人でも多くの親の意識を変えていく努力を続けたい。 委員:そろそろ次年度のゲストティーチャーの候補を考えていきたい。 委員:例えば、日野自動車は市と連携してペットボトルロケットづくりを実施していて、地域貢献の関わりがある。今年度トヨタ（トヨタ羽村工場）に変わってから、改めて地域貢献をしたいという考えがあるようである。 （会長）これをもって会議を閉会します。